わたしたちの人権 96

だれもが人間として生きていくうえで侵すことのできない当然の権利これが『人権』です

子どもたちの人権作文

12月の人権旬間にあわせて、子どもたちが書いた人権作文を先月号に引き続きご紹介します。今月は3人の作品を紹介します。

サヨちゃんから学んだこと

矢部小学校　4年　村山　実希

私は、人権学習で「クレヨンはぬすんだんじゃあねえ。」を学習しました。その中で、サヨは、お母さんが茶つみの仕事をがんばって買ってくれたクレヨンを「ぬすんだんじゃねえか。」と言われ、ポキポキ折られてしまいます。もし、私がサヨなら、買ってもらったクレヨンでお母さんの顔の絵をかきあげるのをあきらめて家に帰ると思います。でも、サヨは、くやしい気持ちでいっぱいになっても、折れたクレヨンで、竹かごをせおった母ちゃんをかいたのが、とってもすごいと思いました。だから、私も、今まで自分でがまんしてきたことや、本当は言いたかったけど言えなかったことを、あきらめないで言い返したいと思いました。

私は、かみの毛のことでからかわれました。かみの毛がくるくるのことをからかわれました。「なんでそんなこと言うの。」と言うと、「他の人とちがうけんたい。」と言われました。そう言われるまでは言い返してたけど、そう言われてだまってしまいました。でも、ぬすんだと言われ、クレヨンをポキポキ折られても、だまって母ちゃんをかきあげたサヨのことを知って、「かみの毛がくるくるで何が悪いと。友だちとちがって何が悪いと。私のかみの毛は、ばあちゃんににてくるくるで、その何が悪いと。」と言いたいです。

あともう一つ、サヨのおかげでできたことがあります。それは、自分の名前の意味をもう一度くわしくお母さんに聞くことができたことです。私は、名前のことでもからかわれて、その時は何も言い返せませんでした。でも、「クレヨンはぬすんだんじゃねえ。このクレヨンは母ちゃんが茶つみをがんばってがんばって買ってくれたんだ。そのお母さんのために、クレヨンを折られてもかく。」という気持ちで、母ちゃんをかき上げたサヨみたいに、私も私の名前のことをきちんと言おうと思いました。だから、もう一度自分で名前の聞きとりをしました。あの時は、からかわれて何も言えなかったけど、「私の名前は実希。実希の実は実るの実、実希の希は希望の希、希望が実ってほしい、ゆめがかなってほしいという意味でお父さんとお母さんがつけてくれた。だから私の名前をからかわないで。」と言いたいです。サヨちゃんがあきらめなかったから、私も自分の名前の意味を考えることができました。サヨちゃんありがとう。

人権学習の中で、サヨのことも考えたし、自分のことも考えました。そして、友達のことも考えました。私がかみの毛のことをからかわれたと話した時、手をあげて「ぼくもかみの毛のことを言われてくやしかった。」と友達が言いました。自分が言われてもくやしいけど友達が言われてもくやしいと思いました。「かみの毛がくるくるで何が悪い。」と言いたいです。

おうちで農業をしていることをからかわれた友達もいました。私のおばあちゃんも農業をしていてピーマンとかを作っています。夏になるとピーマンがよく育ちます。近くのお店に売りに行きます。五十こ以上のピーマンを四こずつ袋につめて、ガッチャンコとテープをします。「買った人がおいしいと言って食べてくれるのがうれしい。」とばあちゃんは言います。だから、農業のことをからかう人に「あなたも野菜を食べて体に栄ようをもらっているから、農業をしている人に感しゃせなんとよ。なんでからかうと。」と言います。

サヨちゃんの勉強で、自分のことや家族のことを考えました。今まで知らなかった友達のことを考えました。今まで知らなかった友達のこともわかりました。もっともっと自分のこと、家族のこと、友達のことを知っていきたいです。

せんそうはだめ

やべ小学校　1年　大つか　あおい

けんがくりょこうで、どうぶつえんにいくことになりました。

せんせいが、ごめんねメリーの本をよみました。せんそう中に、ころされたぞうのエリーのはなしでした。エリーは、なんにもしてないのに、ころされるのはおかしいとおもいました。

へいたいが、エリーをころせとめいれいするのにはらがたちました。どうぶつえんにいったら、エリーにせんそうでしなせてごめんねと、いおうときめました。

十月十六日に、みんなでどうぶつえんにいきました。もうせんそうをしないからねとおもってつくったつるをエリーのおはかにとどけました。

え本をつくったいわしたさんからおはなしもきけました。いわしたさんは、しっかりみて、きいて、かんがえないと、せんそうがおこると、いわれました。

わたしは、いわしたさんのはなしをきいて、けんかはしないときめました。だって、けんかはせんそうとおなじだからです。このまえともだちにいやなことをいったとき、これはせんそうだとおもって、すぐ「ごめんね。」といいました。こころがやさしくなりました。

わたしは、おかあさんになっても、おばあちゃんになっても「せんそうはだめ。」といいつづけます。人がボーとしていたら、わたしがさそって、大きなこえで、「せんそうはしちゃだめ。」といわしたさんといいます。

書記長さんのがんばりから考えたこと

蘇陽南小学校　6年　渡邊　龍樹

ぼくたち蘇陽南小六年生は、二学期の人権学習で同和対策事業の用水路改修について学習しました。

十二月二日にフィールドワークに行き、用水路を実際に見たり、中村益行さんに話を聞いたりしました。書記長さんは、くらしがよくなるように、「用水路のまわりをコンクリートで固めて下さい。」と県に訴えましたが、すぐにはみとめてもらえませんでした。書記長さんは、それでもあきらめませんでした。同和対策事業で差別をなくしたいという思いがあったからあきらめずに、県に言い続けたんだなと思いました。ぼくの家でも米作りをしています。生活をしていく上で水がどれだけ大切かということをお父さんが言っていたことを思い出しました。また、ぼくの家の田んぼにも用水路があり、入佐の用水路と同じように、周りの村とつながっていて、田んぼや生活をうるおしています。だから、書記長さんのおかげでたくさんの人がよろこんだと思いました。

フィールドワークでぼくが一番心にのこった言葉は、「人を頼りにしない。それでは何も変わらない。自分が声をあげていくことで、自分だけでなくまわりもよくなっていく。」という言葉です。ぼくはこの前、友達からたたかれている一年生を見かけました。その一年生は、悲しそうな顔をしていました。一度注意しましたが、やめてくれませんでした。だけどぼくは、言い続けました。いやな思いをしている一年生がいるのに、そのままにしていてはいけないと思ったからです。最後にはぼくの思いがつたわり、たたいていた友達は、手をとめてくれました。その後、一年生から「ありがとう。」と言われました。ぼくは、言ってよかったと思いました。

ぼくも二年生のとき、いやなことをされて学校に行きたくないと思ったこともありました。だけど、すぐに「やめて。」と言うことができませんでした。何か言われるんじゃないか、また同じことをされるんじゃないかと思ったからです。でもお母さんから、「だまっとらんで自分でつたえなさい。」と言われ、勇気を出して「いやだからせんで。」と言ってみました。とてもドキドキしました。だけどぼくは心がスーッとしました。言わなきゃ伝わらないと思いました。

ぼくたちの学校は、今年の四月に統合しました。友達が増え、毎日楽しいです。だけど、ぼくのクラスには、友達が「やめて。」といやな顔をしているのに、ふざけてあだ名を言ったり、物を投げたりする人がいます。ぼくもしてしまったことがありました。また、いやな思いをしている友達を見つけても、注意できないときがありました。だけどフィールドワークを通してこのままじゃいけない、何かおかしいことがあったときは、書記長さんのように、だれかが動いてくれるのを待つのではなく、「やめたほうがいいよ。」と自分が声を出していきたいと思いました。そうすることで、書記長さんの行動でむらとむらがつながったように、ぼくたちのクラスも、本当の仲間としてつながっていけたらいいなと思いました。ぼくの言葉でクラスが変わっていったらうれしいです。

ぼくたちは、あと四ヶ月で卒業します。悔いの残らないように、しっかり自分と向き合い、勇気を出して行動していこうと思います。